

# 外国客を呼び寄せろ シンガポールのカジノ政策

## カジノ効果で外国人来訪者数は過去最高

「キレイすぎてつまらない国だと笑われている」とリー首相が嘆くほど、2000年代初頭のシンガポールでは観光産業が停滞していた。危機感をテコにカジノを観光の目玉として合法化、昨年には国内初のカジノが2カ所でオープンした。

果たしてカジノは成功し、シンガポールへの外国人来訪者数が増加している。昨年は1～11月だけで1,051万人に達し、12月を待たずに年間最高値を更新した。日本への外国人入国者数(2010年、944万人)を上回り、自国の人口(2010年、508万人)の2.1倍に相当する規模だ。

## シンガポール国民のカジノ入場は制限

カジノは外国客をターゲットとしており、シンガポール国民の入場は制限される。入場の際には身分証明の提示が必要で、外国人は無料なのに対し、国民は1回ごとに100シンガポールドル(約6,500円)、もしくは年間2,000ドル(約13万円)の入場料を徴収される。カジノ開業当初は国内の住宅地を結んでいた無料シャトルバスも、昨年9月には運行が突然禁止された。物理的にカジノ入場を難しくする措置だ。

この背景には、国民がギャンブル依存症となり、社会問題になることを防ぐ意図がある。ギャンブル依存症の不安がある人については、カジノから遠ざけるために、本人や家族の申請に基づいて入場を禁止する制度さえある。

## ヒトと共にカネもシンガポールへ

このように、カジノはシンガポール国民よりも外国人観光客を呼び寄せ、国内にカネを落としてもらう戦略である。2大カジノの経済効果は、併設のリゾート施設(写真)も含めて、GDPの0.5～1.0%(約

860～1,720億円)と政府はソロバンを弾く。今年の経済成長率は+4～6%というのが政府見通しであり、カジノを核とした観光産業が原動力の一つとして期待されている。

一方で、シンガポールのカジノが外国客で賑わうにつれて、客を送り出す国との摩擦も表面化している。例えば、マレーシア人は年間27.6億リンギット(約745億円)をシンガポールのカジノで費やす一方、マレーシアの娯楽産業は売り上げを減らしたと報じられている。シンガポールのカジノで散財し、借金を膨らませる人もいるという(マレーシア紙)。事態を憂慮したマレーシア政界では、自国民がシンガポールのカジノへ行くことに制限をかけるべきとの意見が出始めた(シンガポール紙)。

現状、シンガポールのカジノ政策は当たっており、外国からヒトとカネを集めている。周辺国からは待ったの声が上がるほど成功しているといえよう。



みずほ総合研究所 アジア調査部  
シンガポール駐在 小林公司  
koji.kobayashi@mizuho-cb.com

### ●カジノを中核とする2大総合リゾートの一つ



(資料)筆者撮影